資料３

令和6年度酒田市幼保小連携事業の実施状況について

認定こども園・保育園（以下、「保育所等」という）と小学校では、子どもたちが保育所等から小学校の生活へと円滑に移行できることを目指し、さまざまな取り組みを行っています。

本事業は保育所等と小学校の指導者同士の交流連携を深めること、また幼児期の子どもの発達段階を理解し、育ちと学びが連続することの重要性を共有する機会の創出として、市保育こども園課と学校教育課が連携して毎年実施しているものです。

（1）　相互職場体験研修

保育所等と小学校を 20 グループに分け、グループ内で相互に職場体験を実施。

保育園と認定こども園がどちらも同一グループに入っている場合は、令和６年度は認定こども園との実施を優先。

令和６年度から事業対象施設として１園（オランジェリー山形第２保育園）追加。

市内施設数		R6 年度実施数	R6 年度実施率	R5 年度実施状況
グループ	20　グループ	20　グループ	100.0　％	19ｸﾞﾙｰﾌﾟ（95.0%）
保育所等	35　園	22　園	62.9　％	24 園（70.6%）
小学校	21　校	17　校	81.0　％	17 校（81.0%）

保育所等の職員が　小学校で　体験研修

≪ 目的 ≫

具体的な行動から、児童がつまずきとする部分に気付き、連続性のある育ちという観点から、就学に向けて教育・保育に生かしていく。

≪ 参加者の感想 ≫　※報告書より抜粋

- 小学校での授業に向けて、1 日の中で短時間でも椅子に座って活動する時間を取り入れていきたいと思った。
- 発表する機会を多く持つ事で、友だちの考えや意見を聞き、自分の思いを人前で話すことに意欲や喜びがもてるようにしていた。一人ひとりの声を丁寧にひろっていくことの大切さを感じた。
- 自分の思いをみんなの前で伝える経験を増やしていきたいと感じた。
- 要所、要所で「こちらを見ましょう」というお話があり、やはり人の話を聞く姿勢がとても大切だと感じた。

小学校職員が　保育所等で　体験研修

≪ 目的 ≫

子どもの発達段階を把握し、その指導の仕方を体験することで、子どもの学びと育ちの連続性を確保していく。

≪ 参加者の感想 ≫　※報告書より抜粋

- 研究会の時の、先生方の「寄り添う」「言葉がけ」を大事にしている話し合いを聞かせていただいて、気になる子への関わりを丁寧にしていこうと思った。

  時間の区切りを少し長めに伝えることや、自分で選べることや自分たちで話し合って決めることを増やしていきたいと思った。
- 「やればできる」と自信と夢を持って入学してくる１年生の心に寄り添う接し方が大事だと改めて感じた。先生の丁寧な声がけや働きかけを見習いたい。
- 事前に把握していた子どもの様子について、子どもたちの動きを見たり、担任と話をしたりすることで、入学前の子どもたちの様子をより深く理解することができた。

（2）　指導者研修会

子どもの育ちと学びに関わる課題を共有して、それぞれの実践に活かす目的で実施。

市内施設数		R6 年度参加数	R6 年度参加率	R5 年度参加状況
保育所等	35　園	31　園	88.6　%	32 園（94.1%）
小学校	21　校	15　校	71.4　%	13 校（61.9%）

日　時：令和６年８月７日（水）１４：００～１６：００
場　所：酒田市総合文化センター４１０・４１１号室
内　容：① 講話／「連携で育みたい子どもの育ち」
酒田市教育相談室相談員　　岩本　諒子 氏
② グループワーク
次の視点で情報共有および協議を行った.
- ✧ 年長・小１の子ども達等に関しての悩み
- ✧ 悩みや困っていることを解消するために、幼保小の連携でできそうなこと
- ✧ さらに、取り組みを上手く進めるために必要なこと